EGGPLANT
ホームスクール通信　エッグプラント
Nファミリー
2010.2.1
No.67

神話か真理か？創世記6

創造科学に関しての第六弾です。創造主が六日間で世界を創造されたと聖書は記していますが、それを現代のクリスチャン科学者たちは次のようにとらえています。

第六日めは、「地上の生物と人間」の創造です。

「ついで神は、『地は、その種類にしたがって、生き物、家畜や、はうもの、その種類にしたがって野の獣を生ぜよ。』と仰せられた。するとそのようになった。神は、その種類にしたがって野の獣、その種類にしたがって家畜、その種類にしたがって地のすべてのはうものを造られた。神は見て、それをよしとされた。そして神は、『われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。』と仰せられた。神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。神はまた、彼らを祝福し、このように神は彼らに仰せられた。『生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。』」

（創世記一章二十四～二十八節）

地上の動物はたくさん創造されましたが、その中から人間にとって役立つ動物を選んだのではありません。最初から「人間に役立つ動物＝家畜」が設計されていたのです。創造の最後は人間ですが、最初から最高の環境を整えられてから人間が造られたのです。人間だけ「神のかたちに似せて」造られました。これは神が人間の形をしている＝目で見える肉体を持つ、という意味ではありません。人間だけ「霊」を持つ存在として造られ、神と交わりを持つことができるという意味です。（他の動物は体・魂[精神]は持っていますが霊は持っていません。）聖書から見れば動物と人間には明らかな違いがあるのです。進化して道徳観を持つようになったのではなく、宗教を作りだしたのでもしたのでもありません。創造主によって霊的な存在として造られたがゆえに、人は目に見えない神を求めたり、意識したりするのです。ここに人間の尊厳があります。私たち一人一人が価値ある尊いものである理由は、神によってかけがいのない者として造られているからなのです。芸術家が心をこめて作品を作り、大切にするように、人間は神に愛され、大切に思われています。そして存在する目的を持っているのです。（進化論では人間の存在は「偶然」に過ぎず、本来価値や目的などありません。人生に生きる価値を見出すには他の倫理観を借りてきたり、作りだしたりしなければならないのです。）

また、人間はこの地を管理する仕事を任せられました。「支配せよ。地を従えよ。」と言われています。これこそキリスト教文明が自然を酷使し、破壊する根拠になっているところだ、と言われますが真意ではありません。あくまでも私たち人間は管理を任されたのであり、オーナーは創造主です。委ねられたものを適切に治める必要があるのです。

聖書は続いて、こう書いています。

「そのようにして神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ。それは非常によかった。」

（創世記一章三十一節）

ところが現実は、人間にはひどいところがたくさんあります。また、自然破壊しているのも事実です。実は、この悪は最初からあったものではないのです。すなわち、地球や人間の状態は、最初はとてもよかったのに、悪くなっていったというのです。これは「進化論」と真反対の主張です。進化論は、最初は単純・粗雑のものだったのがだんだん良いものに、秩序立ったものになっていったと言います。ところが現実の世界はどうしょう。技術は進歩しても人間性は進歩しているでしょうか。実はこの世界で最も確かな法則があります。それは「エントロピー増大の法則」です。これは秩序あるものは必ず崩壊していくというものです。手を加えず、放置すると新品のものは必ず古くなるのです。その逆は起こりません。これは「進化論」よりも「創造論」の方が現実の世界に合っていることを証しする一例です。

カンボジア訪問を終えて

M

いきなりですが、先月カンボジアに行ってきました。シンガポールの集会との合同プロジェクトで、ある集会のペンキ塗りと各地の集会で伝道してくるというのが目的です。

現在のカンボジアの季節は冬、しかし、平均気温は日本の夏並です。しかし、じめじめしていないため、日陰に入ると風が吹いて心地よくとても良く過ごせました。それでも、カルチャーショックは大きく、シンガポールチームとの英語のコミュニケーションの難しさは想像を絶するものでした。

十日間の思い出をこの少しのスペースでシェアすることは無理な話です。ですから、一つだけ教えられたことを書きます。

カンボジアで最も気に入ったもの…それは子どもたちの笑顔です。彼らはとても純粋で、こちらが挨拶するといつも笑って挨拶を返してきます。カンボジアは人口の半分が二十歳以下であり、実際に僕も多くの子どもたちと会ってきました。しかし、帰ってからも考えてしまいます。どんなに素晴らしい笑顔でも、神様のことを知らずに死んだならば、どんな顔になってしまうのだろう?カンボジアである晩、そのことを気付いた時、どれだけ福音を伝えたくなったことでしょう。しかし、僕にはそれを伝える術がありません。現地の言葉が話せないからです。その役目を担っているのは僕ではなく、現地のクリスチャンたちです。そのために祈りたいと思ったのです。そして、同時に日本に帰った自分の役目についても考えさせられます。僕は日本語が話せます。神様のことを伝えることができるのです。特別な能力や才能はありません。しかし、喋る口を持っている時点でどれだけ大きなアドバンテージとなるでしょう。さらに日本にいる自分の周りの人たちに伝えていきたいと思います。(詳しいレポートはHP(nasufamily.web.fc2.com)に掲載します。二月中旬予定)

こんなことしました！　行事報告

一月

二日　新年会
十一日　新春合同学び会
十二日　R十歳誕生日
十六日　Jクラブ「おもちつき」
十八日　キムチ講習会
十七～二十八日　カンボジア訪問(真良樹)
二十六日　お作法教室(点心)
　　塗り絵・工作教室
　　(名画の塗り絵をしよう)

←カンボジアにて

→ もりぐち歴史館の前で。
成人式記念に振り袖を着たSちゃんとN

着付け教室

N

私は昨年の十一月から、集会のU姉妹の知り合いの方に着付けを教えてもらうことになりました。毎月一、二回、私とU姉妹、またU姉妹の姪のYさんと一緒に教えてもらっています。U姉妹とYさんは、着付けを教えてもらっていた経験があり、とても上手に着ていますが、私はまだ、上手に着られません。ですが、先生はとても優しく教えてくださり、本当に分かりやすいです。

着物を着ることには大分、慣れてきました。今は、名古屋帯を使っての「太鼓結び」を教えてもらっています。私としては着物を着るより、帯を結ぶほうが難しいと思います。先生も横で一緒に結んで下さり、真似するだけでいいのですが、帯は後ろで結ぶから、どう手を動かせばいいのが、なかなか覚えられません。

今月の着付け教室には集会のSちゃんが振袖を着せてもらうために来ました。私が着物をやっと着ることができ次は帯を結ぼうと思ったら、先生とYさんはSちゃんの帯を結び終わったところで、その速さに驚き、感嘆しました。私も人に着せることができるぐらいに上手になりたいです。

私は着付け教室に通う前から、着物が大好きでした。なぜ好きなのかは、自分でもよく分かりません。(笑)

これからも続けていきたいです。

編集後記

Mの初海外旅行に家族みんながドキドキ。終ってみればアッという間。おみやげ話をどっさり持って帰って来ました。コミュニケーションはすべて英語だったそうで…それに感化されてまたしばらく英語ブームか?